

高校生の制服に対する意識と 学校教育との関連性について

Relationship between School Education and Senior High School Students' Attitude toward School Uniforms

福村 愛美
Manami Fukumura

ABSTRACT

I have analyzed the meaning and function of school uniforms and students' attitude toward school uniforms.

The results obtained are as follows.

1. The image of uniforms among high school students is one of being a typical student plus unity and youth.
2. There does not seem to be a difference of opinion between administration and students about uniforms. Students recognize uniforms to be valuable.

1. 緒 言

制服は学校教育と共にごく自然に受け入れられ、廃れることなく親しまれてきた。一般的な制服として男子生徒は詰襟の学生服、女子生徒はセーラー服が主流であるが、最近は特に私立などで制服のデザインを新しくしている学校が増えてきている。中・高生はその学校の制服を気に入る気に入らないを問わず、3年間着用しなければいけないことから、生徒にとって無関心ではいけないと思われる。そのため私立高校、特に女子高では生徒の人気を集めるために有名デザイナーのデザインによる制服に変えたりしている。制服は男子に比べて女子の方が様々なデザインが見られる。男子の詰襟の学生服は学校によってほとんど区別がつかないが、女子のセーラー服は襟の線の数とか、ネクタイの形や色または結び方などで、様々な学校差ができる。またセーラー服だけでなくブレザータイプやジャンパースカートなど、色々なデザインの制服がある。学校によっては私服の学校もあるが、全国的にみた場合は、やはり中学・高校において制服着用を義務づけている学校が圧倒的に多い。このように制服は一種の学校側の生徒に対する押し付けであるにもかかわらず、反抗期の子供達に意外と簡単に受け入れられて来たのはどうしてだろうか、また制服は学校教育にどのような意義があるかなどを、調査をもとに検討し考察した。

2. 方法

調査は大分県立芸術文化短期大学付属緑丘高等学校に在学する満15才から満17才までの美術、音楽を専攻する高校生160名を対象に行った。調査方法は家庭科の授業中に調査表を配布し、その場で質問事項について記入してもらい回収した。有効回収数は152票で、回収率は95%である。調査内容は現在着用している制服を気に入っているか、制服の良いところ悪いところは何か、学校を制服で選ぶか、どのようなデザインの制服が好きか、制服はどのようなイメージがあるかなどである。調査項目は制服の評価(4項目、5段階評価)、制服の人気のあるデザイン(2項目、3段階評価)、制服のイメージ(10項目、5段階評価)などである。分析方法は調査データを項目別に単純集計し、生徒が高校の制服をどのように受け止めているかを集計結果をもとに明らかにし、学校教育と制服との関連性を考察した。

3. 結果及び考察

制服について生徒がどのような意識を持っているかを図1～図10に示した。図1は制服のイメージの評定平均値を求めプロフィールを描いたものである。制服のイメージとして強いのは、学生らしさ、統一性、若さなどである。又青春や、紺色、勉学のイメージもややあるといえる。イメージとしてあまりないのは自由、明るい、それと暗いという対比したイメージが、ほぼ同じ程度でとらえられているのは、矛盾しているように思われる。これは制服が学生生活をイメージさせ、学生生活の両面性をあらわしていると考えられる。

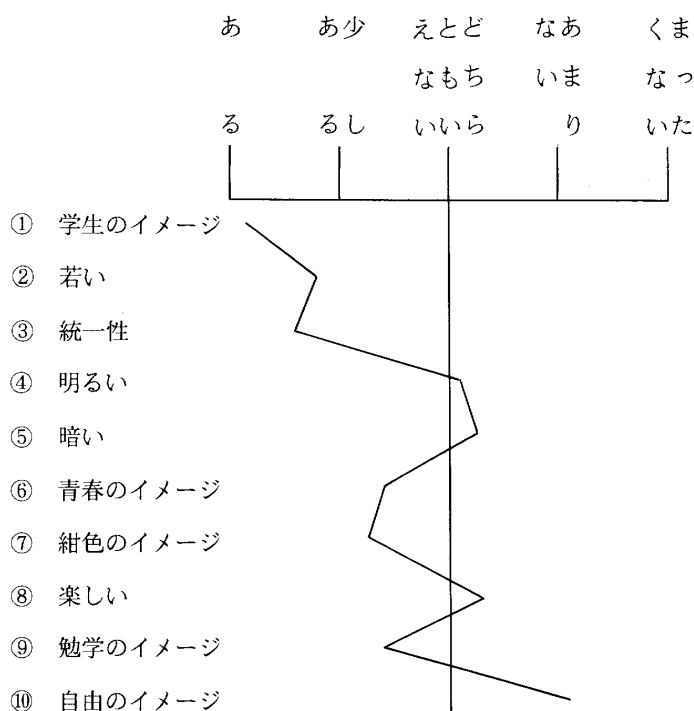


図1 制服についてのイメージ

高校生の制服に対する意識と学校教育との関連について

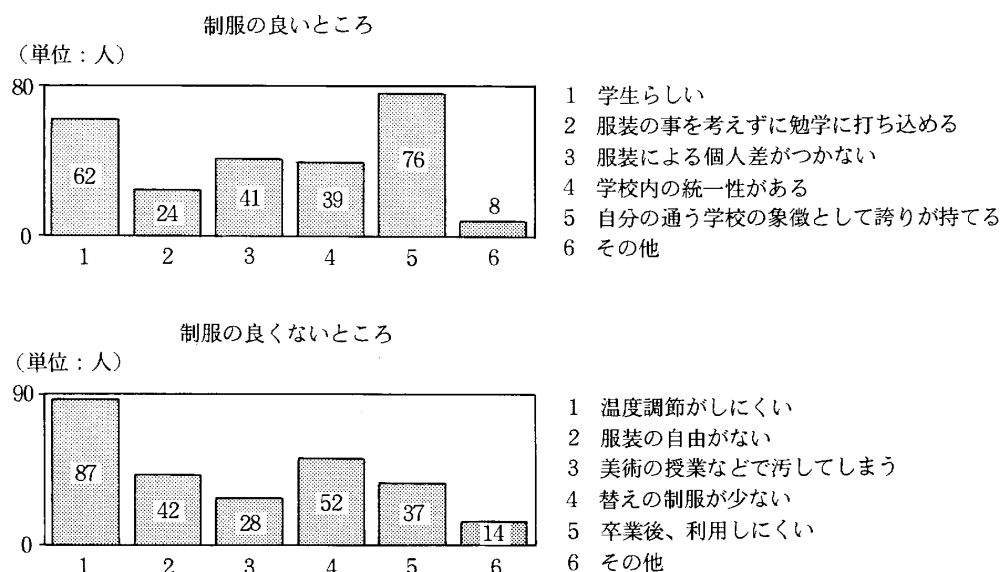


図2 制服の良いところ、良くないところ

図2の制服の良いところ良くないところでは、まず良いところとして、自分の通う学校の象徴として誇りが持てるが76人と一番多く、調査対象となった生徒は半数近くが自分の学校に誇りを持っている。次に、学生らしいが62人と多く、制服を着用すると学生らしく見えるということが、生徒から見て良いことと受け止めていることがわかる。又制服であれば服装による個人差がつかないが41人、学校内の統一性があるが39人と支持があることから、生徒が制服によって服装による差がつかないことや、学校内の統一性がある事を良いことだと考えている事がわかる。これは教育者側としては、望ましいことだと考えられる。制服の良いところとして挙げた項目は、学校教育の中で理想的な事柄であるが、それに対して生徒の反発は以外と少ないのではないかと考えられる。また制服の良くないところは、温度調整がしにくいのが87人、替えの制服が少ないが52人と多く、衣服本来の機能性や現実的な理由が多い。生徒が不満に感じているだろうと思われた服装の自由がないというのは、2番目に多い42人であった。今の高校生というのは、決められたことには意外と従順であると考えられる。それは高校生だけではなく、日本の社会全般にいえることかもしれない。制服の良くないところとして、その他で生徒が答えた意見はやはり現実的かつ機能的な面が多く、動きにくいとか、値段が高いなどであった。

図3の現在着用している制服を気に入っているかの質問に対して、冬用の制服と夏用の制服に分けて聞いたところ冬用は気に入っているが64%、まあ気に入っているが24.5%と、ほとんどの生徒が気に入っていると考えられる。それと比較して、夏用は気に入っているが31.1%、まあ気に入っているが27.4%と、現在の制服に満足している生徒は半数を僅かに越える割合になっている。この調査の対象者である大分県立芸術文化短期大学附属緑丘高等学校の制服は、男子の冬用は一般的な黒の詰襟の学生服で、夏用は開襟シャツに黒のズボンである。女子の冬用は紺のセーラー服で、グレーの襟に紺の3本線、紺のネクタイに紺のひだスカートである。また夏用の上衣は白のセーラー服で水色の襟に白の3本線があり、ネクタイはなくダブルの合わせて紺のボタンが6個付いたデザインである。スカートは紺の襞スカートである。芸術系の高校なので男子生徒の人数が少なく、男子の制服は冬用、夏用どちらもきわめて一般的なスタ

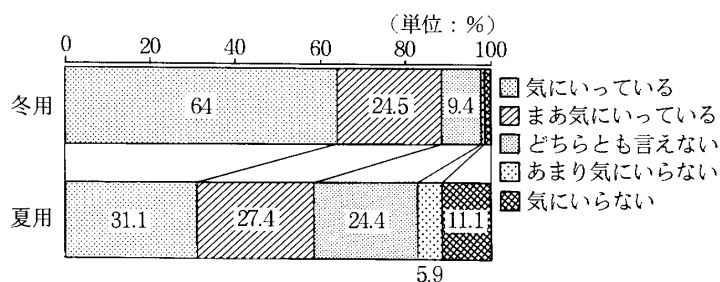


図3 現在の制服は気に入っているか

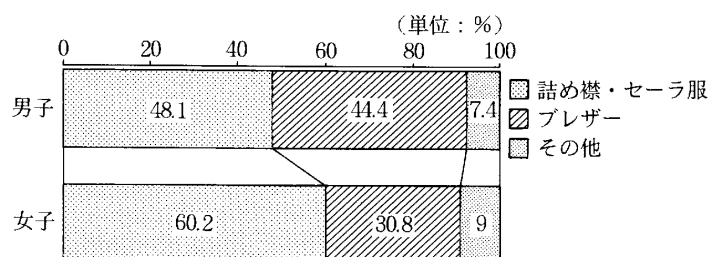


図4 好きな制服のデザイン

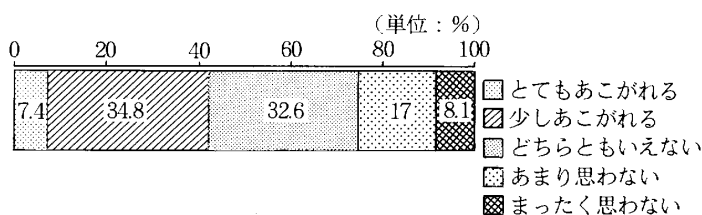


図5 私服にあこがれるか

イルなので、この集計結果の冬と夏の違いは、女子生徒の制服に対する評価の違いと考えることができる。女子生徒の夏用のセーラー服は一般的なセーラー服とは少し変わっていて、さわやかでかわいく見えるのだが、生徒は必ずしも気に入っているわけではないと考えられる。

図4の好きな制服のデザインでは、男子は詰め襟の学生服が48,1%で、ブレザータイプの制服が44,4%と半数程度に分かれた。女子はセーラー服が60,2%と多く、ブレザータイプの制服は30,8%であった。回答した生徒が、セーラー服着用者なので、この質問からも現在の制服に満足していることがわかる。また一般的なデザインであるセーラー服が好まれる傾向にあると言える。図5の私服に憧れるかでは少し憧れるが34,8%、どちらともいえないが32,6%、あまり憧れないが17%と想像より生徒は私服に憧れていないと考えられる。この年頃の子供達は規制されたらそれに逆らいたいと思うのではないかと推測するのだが、意外とさめていていると思われる。図6の高校に入るとき学校を制服で選ぶかどうかでは、少し制服が気になるが51,9%、まったく気にしないが45,9%と、約半数程度に意見が分かれた。その理由を図5の集計結果からみると、学校の価値は制服で決まらなると答えた者が38,2%、3年間着る衣服だからと答えた者は33,3%と分かれたが、前者は制服によって左右されないと答えた者の理由と考えられるし、後者は3年間着る制服だから少し気になると思われたと考えられる。またセンスの悪い制服

高校生の制服に対する意識と学校教育との関連について

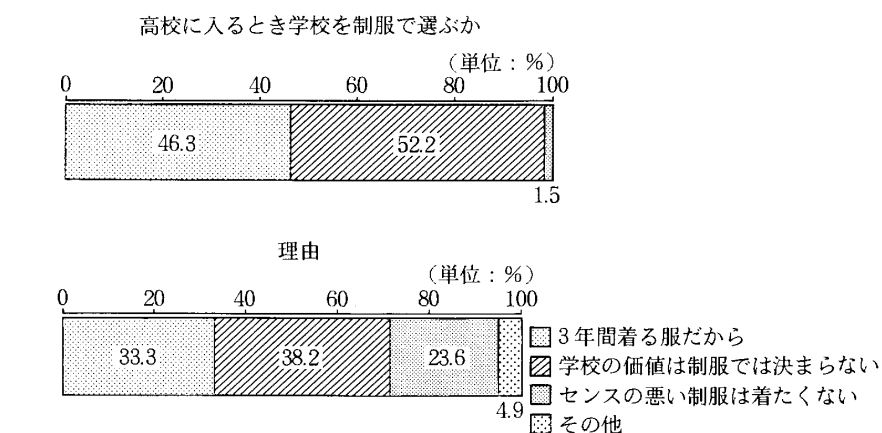


図6 高校に入るとき学校を制服で選ぶか

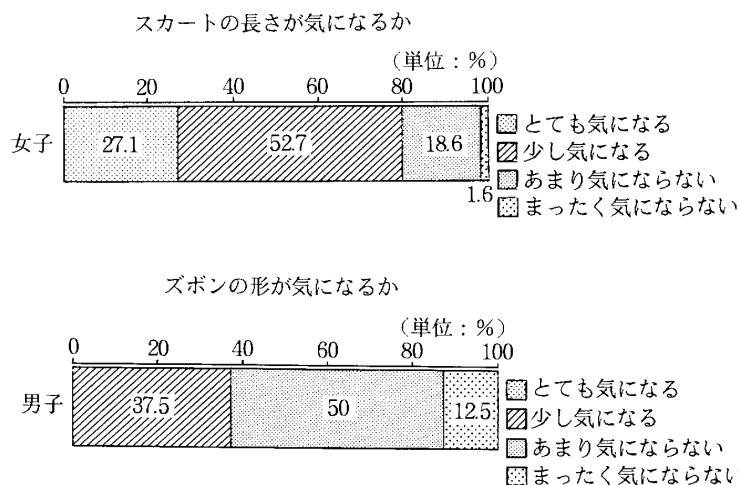


図7 制服のズボンやスカートの形や長さが気になるか

は着たくないと答えた者も23,6%いる。このように制服に左右される生徒も4分の1程度いることから、制服のデザインを無視することはできない。しかし制服は、単にデザインだけで良し悪しが決まるとはいえず、学校の付加価値が必ず加味されると考えられる。

図7の制服のズボンやスカートの形や長さが気になるかでは、男子のズボンの形が気になるかどうかをみると、あまり気にならないが50%、まったく気にならないが12,5%と、合わせると3分の2程度を占めることから、男子はズボンの形などあまり気にせず、形を崩さないで素直にはいていることがわかる。それに比べて女子のスカートの長さが気になるかでは、少し気になるが52,7%と多く、とても気になる27,1%を足すと80%程度の女子生徒がスカートの長さを気にしていることがわかる。スカートの長さというのは制服に限らず女性のファッションの重要な点となるので、やはり制服でも同じことがいえると考えられる。また制服のスカートの長さは時代の違いだけでなく、地域差もあるのが興味深い点である。高校から大学に入る時に、中部地方から関西地方に来て、中部の高校生はスカートをより長くしようとしていたのに、関西の高校生は制服のスカートが大変短く、膝上の長さというのは印象に残っている。このように制服という規制の中でも、生徒達は独自の流行を作り上げている。図8の靴下の流行

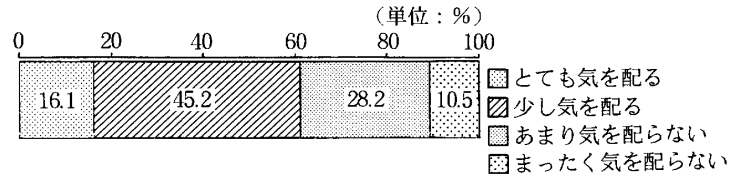


図8 靴下の流行に気を配るか

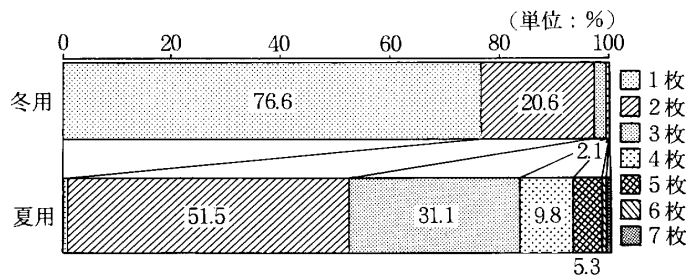


図9 制服を何着もっているか

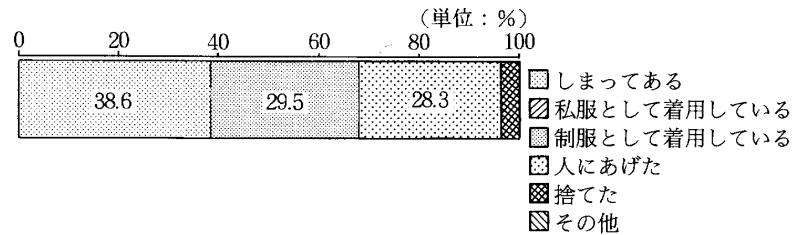


図10 中学の制服はどうしたか

に気を配るかでは、少し気を配ると答えた者が45,2%と多く、とても気を配ると答えた者も16,1%いる。両者を合わせると60%を越えることから、靴下の流行に気を配っている生徒が多いと考えられる。靴下については学校によってそれなりの規制はあるが、制服の様に種類に決められているわけではなく、範囲の中である程度の自由があるために、その枠すらも破られがちである。そのため制服の中で生徒が唯一おしゃれがきるところとも言える。これをどう規制するかは学校側の姿勢しだいで、生徒はそれにに応じて規制すれすれまでおしゃれをしようとする。外部から見た場合、生徒は規定通りの形で制服を着用している姿が一番好感を持てるし、全体的に見た場合もきれいに見えるのだが生徒自身はそうは思えないようだ。できる範囲で少しでも彼ら彼女らの制服の流行に沿って制服を着こなそうとする。これは規制に対する一種の抵抗かもしれない。

図9の制服を何着もっているかでは、冬用は1枚が76,6%と圧倒的に多く、2枚の20,6%を合わせると大半を占める。今の時代にほとんどの人は各々の季節に応じて何着も衣服を持っているのが当たり前なのに、1, 2枚というのはずいぶん少ないと考えられる。これは制服の値段が定価で決まっていて高いということや、高校に通う3年間着用するだけで、卒業したらまず着用することは皆無だということである。だから1枚の制服を着れるだけ着るようだ。1枚であるとあまり洗濯もできないということから、少し不衛生と思うがこれはしかたがないとも

いえる。夏用の制服は冬用に比べて枚数が随分増える。2枚が51.5%で3枚が31.1%と、大半の生徒が2, 3枚持っている。これは冬用より、全体的に1枚多いと考えられる。中には7枚持っていると答えた生徒もいて、やはり夏はどうしても着替えの制服が必要だということと、冬用よりも比較的価格が安くなるということが理由だと考えられる。図10の中学の制服はどうしたかでは、しまつてあるが38.6%が一番多く、次に制服として着用している29.5%と、後輩や親戚の人などにあげた28.3%が多かった。捨てるのはもったいないのでしまつておくか、たまたま現在の高校の制服と、中学校の制服のスカートのデザイン、色などが同じために高校でも着用できるということで利用している生徒が3分の1もいる。中学校で着た制服なので、すでに十分着用された制服かもしれないのに、再利用して着用するという事は、やはり制服の価格が高いという点によるものだといえる。人にあげるといふのも同様の理由であると考えられる。しかし中には捨てたという者もごく少数いた。私服として着用するという者は、一人もいなかった。学校以外で、着古した中学校の制服を着ることがないというのは当然である。このように制服を何枚も買えないというのなら、家庭科の被服実習で、製作させてみたら良いのではないかと考える。必ず利用できるものなら生徒も製作に意欲的に取り組めるだろうし、製作した作品を有効利用することもできる。最近は家庭で衣服を作ることが少なくなっていることから、生徒達も被服を製作することに馴染みが薄く、興味があまり沸かないようである。被服実習に興味を持たせるためにも、ひとつのきっかけになったらいいのではないかと思う。

制服はこのように学校教育の中で切り離せない存在であるが、教育者側だけの利点だけでなく生徒自信も制服の良さを認めていることが明らかである。見た目のデザインの変化だけではなく、機能性や冬用、夏用の区別よりさらに、季節に応じて臨機応変に着脱できるように学校側も柔軟に規則を定めてもいいのではないかと思う。替えの制服は多くあった方がいいのだから、制服の価格が少しでも安くなれば、もう一枚余分に買うことが可能になる。学校の規則もむやみに緩くする必要はないが、生徒の学校生活をより快適に送らせることは、教育者側がいつも考えなくてはならないと思われる。

4. 要 約

学校の教育現場における制服の意義を、生徒の制服に対する意識調査をもとに分析した結果、次の様なことが明らかになった。

- (1) 高校生の持つ制服のイメージは、学生らしさや統一性や若さなどである。又自由のイメージはないと考えられている。
- (2) 制服の良いところとして生徒は、学生らしいとか自分の学校の象徴として誇りが持てるなどの精神的な面を挙げている。制服の良くないところは、温度調節がしにくい、替えの制服が少ないなど衣服本来の機能性や現実的な理由が多い。
- (3) 実際に生徒が着用している制服に満足しているかどうかで、今回の対象者の高校生は、冬用の制服は大半の生徒が気に入っていると答え、夏用の制服に対しては満足している生徒は半数程度だった。
- (4) 生徒の気に入っている制服のデザインは、男子は詰襟の学生服とブレザータイプに、半数程度に分かれた。女子はセーラー服に3分の2程度の支持があった。また私服に憧れる生徒は3分の1程度で意外と少なかった。

福 村 愛 美

- (5) 高校に入学するとき学校を制服で選ぶかでは、少し気かけると、まったく気かけないが、半数程度に分かれた。理由としては、3年間着る衣服だからとか、学校の価値は制服では決まらないからなどである。
- (6) 女子高校生は、制服のスカートの長さに敏感である。
- (7) 生徒一人あたりの制服所有枚数は、冬用で1, 2枚、夏用で2, 3枚である。また中学の制服は高校でも着用したり、人にあげたりして再利用されている。

以上の結果から、生徒は制服の良さを内面的な面から認めていて、制服に関して学校側と生徒の意識の違いはあまりみられないと考えられる。

終わりに、調査にご協力いただいた大分県立芸術文化短期大学附属緑丘高等学校の賀久春枝先生に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 岡村喜美、武井洋子、田部井恵美子、家庭科教育法、学文社 (1982)
- 2) 樋泉俣子、長井満里子、中川早苗、家政誌、41、361 (1990)
- 3) 大矢愛美、研究紀要、大分県立芸術短期大学、29 (1991)